

年末駆け込み加工が急増

コロナによる建設の遅れを挽回

12月のプレカット調査

プレカット市場は年末の駆け込み加工が急増している。12月の全国プレカット各社のエリア別受注平均は98・0%（前年同月比1%減）と、前月の減少から再び増加して今年最高を記録した。10月の盛り上がりを経て11月は減少したが、再び12月に増加した。11月下旬から全国的に年内の急な加工依頼が増え、多くの工場が対応に追われている。新型コロナウイルス感染症の影響で遅れていた建設の引き渡しを急ぐ傾向が強まっている。

本紙が全国のプレカット25社を対象とした別稼働の平均は98・2%（同5・5%減）と、3期となったが、それで稼働状況調査（別表に）

も100%には届かなかった。木造の新設住宅着工戸数が前年比約10%減で推移しているためで、エリアや工場間で濃淡が目立つ。ただ、月間1万坪以上を加工するような、大規模工場の受注は総じて好調だ。むしろ年後半から、大規模工場

では受注の勢いが増し、不需要期とされる来年1月以降の見積もりや受注残もかなり積み上がっている。「年末までこの調子で推移するだろう」（大手プレカット工場）という声もある。

一方で、この一年、受注の波にさらされてきた中小工場も多い。これらの工場の動向が、本紙調査の受注・稼働平均の動きに連動する傾向が強い。これらの工場では、10月分受注は増加したものの

12月のプレカット稼働率調査（全国平均表）
単位：％、（ ）内は前年比

	11月(稼働)	12月(受注)	21年1月(見積もり)
北海道	123.0(129.0)	100.0(100.0)	70.0(100.0)
東北	72.5(81.5)	78.5(95.5)	55.0(83.0)
関東	98.5(103.8)	102.8(104.5)	96.7(106.0)
中部	107.3(101.7)	106.0(107.7)	98.0(114.7)
関西	94.0(87.5)	100.0(101.0)	91.0(92.5)
中国	99.0(74.5)	103.5(86.5)	— (—)
四国	95.0(80.0)	95.0(90.0)	80.0(90.0)
九州	96.0(98.0)	98.0(107.0)	89.0(99.0)
全国平均	98.2(94.5)	98.0(99.0)	82.8(97.9)

※全国平均に回答なしのエリアは含まず

に抱えるプレカット会社だが、こうした工場の受注は安定感がある。これだけ新型コロナウイルスで経済不況が騒がれても受注稼働は高位を保っている。

11月分はピークを過ぎ、そのまま今年の仕事は収まってしまうと見られていた。それが11月下旬にかけて、再び12月分の受注が増えた。これは全国的な動向で、年末までに建てる方を急ぐ住宅会社の意向が強まっている。

「仕事納めの29日までに屋根仕舞いや外壁を張り終えたいとして、2週間前までに加工してくれという要望が増えている。基礎ができていたため早く図面を出してくれとか、図面を持ち込んで3日後には加工してほしいという案件すらある」と（同）というほど切羽詰まっている。

ただ、これも年末までの駆け込みという要素が強く、来年初からの見積もりには厳しい見方も多い。今回の調査でも来年1月分の見積もりは82・8%と大幅減。今年の見積もりで最低だった8月の84・0%を下回った。